

8 - 1 本時の展開 ( 1/7 時 )

授業者 SM ( 場所 : 1 年 3 組 )

( 1 ) 本時の目標

- ・ 「どちらがいくつ多い」という設問は減法で求めることを知る。
- ・ 減法は、大きい数を被減数に小さい数を減数に書くことを知る。
- ・ - の意味を知り、答えに数詞をつけて表す。

( 2 ) 展 開

	学習活動	指導上の留意点	
問題 の 理 解  5 分	1. 学習課題を知る。 右手、左手でキャップつかみゲームをします。どちらが、どれだけ多いかを見つけてます。		
	T 1 : ワークシートにきれいに並べて下さい。一目でわかるように置いてください。聞いていることはなんでしょう。 T 2 : 二つも皆さんに聞いています。それに答えるには答えを二つ書かなくてははいけません。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 最初に、右手と左手では大きさも握る力も違うことを教え、どちらの手がキャップを多くつかめるか意欲を持たせる。</li> <li>・ 文章をしっかりと読ませ、何を聞いているか線を引かせる。</li> <li>・ 一度、右手でつかんでそれから、左手でつかんで、それを自分の机の上で混じらないようにする配慮をさせる。</li> <li>・ 10 を越える数をつかんでもかまわない。</li> <li>・ 画用紙に「みぎて」「ひだりて」と書いてその下にキャップを並べることのできるスペースをもったワークシートを用意する。</li> </ul>	
	<p>発展</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ぱっと見て、いくつ違うかが分かる並べ方を考えつく。</li> </ul>	<p>基礎</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ どちらが多いか分かる。</li> <li>・ キャップを並べて比べることができる。</li> </ul>	<p>補充</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ どちらが、多いかは、感覚的に分かる。</li> <li>・ 比べ方が思いつかない。</li> </ul>
解決 の 計 画 ・ 実 行  1 0 分	2. 解決の計画を立て、実行する。 T 3 : それでは、まず1つ。「どちらが多いか」って聞かれているので答えましょう。どうするとわかりますか。 C 1 : キャップを並べてみるといいよ。 C 2 : 数字でわかるよ。 C 3 : すぐにわかるよ。 ・ ここでは、直感的にわかると思われる。 T 4 : どちらが、多そうと言うのはわかりそうですね。では、いくつ多いというのはどうですか。 C 4 : 数を数える。 C 5 : きちんと並べる。 ・ 縦に並べるか。横に並べるか。 にかこむか。それは全て認めて、二つの並び方 ( 1 対 1 対応 ) が一番分かりやすいことに気づかせる。 T 6 : きちんと並べるためにとても良いブロックがありますので、紹介します。 T 7 : これは、ブロックですが、磁石になっているのでくっつき、大きさも同じで、きちんと並べることができるので、とても便利です。これを使って、みなさんの右手と左手でつかんだ、キャップの数をきちんとブロックに置き換えてみましょう。 C 7 : キャップの数を数えて、同じ数のブロックを置いていく。	<p>C 6 : どうしていいか分からない。 T 5 : このように並べるとどうですか。(並べ方を指示する。)</p> <p>C 8 : キャップにブロックを置いて C 9 : 置き方が分からない。</p>	

	<p>てから、1つずつ置き換える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ここでは、ブロックの使い方を教え、きちんとならべること、対比して見ることができることに気がつく。</li> </ul> <p>T 8 : それでは、並べていくつ多いかわかりましたか。</p> <p>C 10 : いくつ多いか言う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>対応させたり、隠したりして多い方を浮き出すようにすることができると良い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>両者のブロックをどのようにするとどちらが多いかわかるのかをたずねる。</li> </ul> <p>T 9 : 1つずつ置き換えよう。(置き方を指示する。)</p>
解決の検討	<p>T 10 : それでは、いくつ多いかを知るための式を見つけてみましょうね。今までの式は足し算でした。これは何算でしょう。</p> <p>C 11 : 足し算</p> <p>C 12 : 引き算</p> <p>T 11 : 足し算と思う人。引き算と思う人。全員の考えを人数で書いておく。</p> <p>T 12 : なぜそう思ったか訳を話してください。</p> <p>C 13 : 足し算で答えがわかったから。</p> <p>C 14 : いくつ多いからは、引き算。</p> <p>C 15 : 違いだから。</p> <p>C 16 : 答えは分かる。足し算じゃ、答えが合わない。</p> <p>T 13 : こういふ「いくつ多いか」と言うときには引き算を使います。</p> <p>T 14 : 引き算は <math>7 - 5 = 2</math> こたえ2このようにかきます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>足し算の根拠は、<math>7 + \quad = 9</math>なので、<math>7 + 2 = 9</math>と書くかもしれない。</li> <li>この子の場合、答えが最後に来ることが大切と言うことで知らせる。足し算しか習っていないので、足し算という子がいるに違いない。できるだけ子どもの意見を言えるようにしたい。自分の意見が言えなくても自分が思った意見に賛同したり反対する意思表示をめざしたい。</li> <li>引き算は、どちらが多いときに使うとか比べるからとか、違いを見つけるときとかいう子がいるかもしれない。しかし、<math>9 - 7 = 2</math>を<math>7 - 9 = 2</math>と書く子も多いはずである。</li> </ul>
まとめ 5分	<p>T 15 : それでは、みなさんの式はどうか、答えも黒板に書いてください。</p> <p>T 16 : 大きい数を被減数に小さい数を減数に書きます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ノートの使い方を指導する。</li> <li>子どものノートに自分の結果を式と答えに表す。</li> <li>- はいくつ多いかと言うときの記号。= は同じであること、答えは数詞を付けることを確認する。</li> </ul>

(3) 評価

- ・ 「どちらがいくつ多い」という設問は減法で求めることを理解できたか。
- ・ 減法は、大きい数を被減数に小さい数を減数に書くことを理解できたか。
- ・ - の意味を知り、答えに数詞をつけて表すことができたか。